

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 29 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24242007

研究課題名(和文) 中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究

研究課題名(英文) A Study on Development of images of Illustrated Biography of Prince Shotoku in Medieval period

研究代表者

沖松 健次郎 (OKIMATSU, KENJIRO)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・絵画・彫刻室長

研究者番号：30332133

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 26,200,000円

研究成果の概要(和文)：中世の聖徳太子絵伝は、奈良近辺を中心とした聖徳太子所縁の寺院系、浄土真宗系と
いうように図様をいくつかのグループに分けられる。本研究ではそれらを、高精細デジタル撮影し、画像データ
を取得。事蹟場面ごとに各作例を分類しデータベースを作成して、それをもとに図様の比較分類を行った。
これにより、細部の詳細な比較を行うことが可能となり、聖徳太子絵伝の図様の伝播、継承といった展開の様相
のみならず、他の説話画、仏画、絵巻作品なども含めた絵画諸作例との比較検討等に有益な基礎データを整備で
きた。

研究成果の概要(英文)：A Study on Development of images of Illustrated Biography of Prince Shotoku
in Medieval period are divided into some groups, for example, groups of that used in temples that
related to Prince Shotoku around nara and groups of that used in Jodo Shinsyu temples. This study
makes digital image database of these paintings and this database enables a delicate comparison of
images of each paintings. As a result, Useful data is able to provide that for delicate comparison
between Illustrated Biography of Prince Shotoku and another narrative paintings, buddist paintings,
picture scroll etc.

研究分野：仏教絵画

キーワード：聖徳太子絵伝 図様 画像データベース 中世

1. 研究開始当初の背景

本研究に先立ち、東京国立博物館が所蔵する旧法隆寺献納宝物で、現存最古の聖徳太子絵伝の作例である、国宝 聖徳太子絵伝 秦致貞筆 10面 平安時代・延久元年(1069)に関する画像集が高精細デジタル撮影による、各事蹟の拡大画像と解説を収録した調査概報の刊行が行われていた。現存最古で規模や作風において最も優れていながら、後世の修理が多く、絹地も傷み、ケース越しはもちろぬ、かなり近づいての肉眼観察でも図様の判別の難しかった同作品について、拡大した画像を見られることと、作品に即した肉眼観察に基づく詳細な記述の刊行は画期的であった。

この蓄積が発端となり、他に寄託品も含めて3件の聖徳太子絵伝を所蔵している東京国立博物館のさらには研究として、中世の聖徳太子絵伝のデジタル画像を集積し、データベースを構築し、太子絵伝の図様展開や、中世説話画、更に仏画全般やまと絵などとの関連を考えるための基礎資料整備を目指したことが背景となっている。そのため、当初は現存作例を網羅することを前提としていた。

2. 研究の目的

日本における古代中世の大画面説話画の中でも、比較的早い時期から成立した聖徳太子絵伝。南都を中心とした聖徳太子ゆかりの寺院に伝来する系統と祖師の聖徳太子信仰に基づく浄土真宗寺院に伝来する系統など、制作・享受する集団の違いで画面構成や画面ごとの図様に特徴がある。そうした聖徳太子絵伝について、高精細画像によるデータベース構築と、それをもととした図様展開の一端を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

聖徳太子の年齢ごとに必ずなんらかの事蹟が充てられている特徴を利用して、高精細デジタルカメラで撮影した画像をもとに、各作例の事蹟ごとに画像を分類。データベース化して、比較対照を行う。同じ事蹟でも描かれ方や描く事物の選択、また事蹟そのものの選択についても、その作品の制作母体や享受環境と密接に関連しているので、事蹟選択の傾向や、描き方などについて詳細に検討した。

絵伝制作の主な典拠となる『聖徳太子伝暦』についても多くの諸本が存在し、内容に異同がある。現状では影印本のみしか公刊されていないものも多いので、それらを翻刻して、デジタルデータ化し、絵伝の場面内容検討の参考とできるようにした。

また、技法や制作にかかわる関連情報として、蛍光X線分析による、特に白色顔料の分析や、顕微鏡撮影による絵絹の絹目の撮影等も行った。

4. 研究成果

大阪・四天王寺 遠江法橋筆 6幅本(重要

文化財) 同 狩野山楽筆旧絵堂板絵本(重要文化財) 東京国立博物館 3幅本(重要美術品、川合玉堂氏旧蔵) 東京・根津美術館本、奈良・大蔵寺本、アメリカ・メトロポリタン美術館本、大阪・叡福寺本、滋賀・中野太子堂本、東京国立博物館寄託の旧観音正寺本、アメリカ・ボストン美術館本、などの国内外の主な現存作例のカラー高精細画像撮影を行い、主要作例の高精細デジタル画像によるデータベースを整備できた。当初目指した、現存作例すべてを網羅することはできなかったが、これにより各場面の描写内容の詳細な比較検討が容易になった。

近年、個々の作品に関する研究は個別に進んでいる面もあった。しかし、網羅的に集め、横断的に場面ごとの比較を行うことは、1969年の奈良国立博物館刊行の『聖徳太子絵伝』以来なされていなかった。現在でも、同本の太子絵伝研究の上での基礎資料としての重要性は失われていないが、細かく見ていくと事蹟内容の分類表の項目立てや、各作品の中の事蹟内容の有無について、不明確なものや有無の事実の誤認などが見られ、不十分な点も多々見出された。

そこで、本研究では、先ず作品の調査ごとに『聖徳太子絵伝』の事蹟の分類表を手掛かりにして新たに場面分けを行った。その過程で従来の事蹟表に挙げられていない場面があることや、逆に事蹟表に挙げられていながら実際には作品に描かれていなかったりということが判明した。それらの結果をもとに、事蹟分類表の再検討と項目の充実化、作品との対応の再検討を行った。

作品ごとの検討からは、東京国立博物館所蔵の重要文化財 聖徳太子絵伝(四幅本)に関して、法隆寺の伽藍の描き方が実際の配置に基づいていることや、茨城・妙安寺所蔵の重要文化財 聖徳太子絵伝では、四天王寺の場面で、ほかの作例にはほとんど描かれていない、亀井と思われるものの描写があり、それが亀井の描かれた例としては現存最古と考えられること、場各作品の最新の研究成果も踏まえて、事蹟表との対応を再検討し、より妥当と思われる内容がある場合は新たに分類した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

沖松健次郎、聖徳太子絵伝(四幅本)の図様構成上の特色、法隆寺献納宝物特別調査概報 33 聖徳太子絵伝(四幅本)1、査読無、33巻、2013、23-25

土屋貴裕、聖徳太子絵伝(四幅本)の概要、法隆寺献納宝物特別調査概報 33 聖徳太子絵伝(四幅本)1、査読無、33巻、2013、17-22

沖松健次郎、平安時代宗教画における画
中色紙形に関する基礎的考察、東京国立
博物館紀要、査読無、第 49 号、2014、
167-234

土屋貴裕、聖徳太子絵伝（四幅本）と
法隆寺、法隆寺献納宝物特別調査概報 34
聖徳太子絵伝（四幅本）2、査読無、巻
34、2014、84-88

土屋貴裕、太子絵伝のある空間 法隆寺
伝来の二つの聖徳太子絵伝、明日香、
査読無、第 131 号、29014、16・21

〔学会発表〕(計 6 件)

— 土屋貴裕、四天王寺所蔵六幅本聖徳太子
絵伝をめぐる諸問題、東京文化財研究所
企画情報部研究会(招待講演)、2013、東
京文化財研究所

— 土屋貴裕、嘉元本聖徳太子絵伝を絵解く、
斑鳩町いかるがホール「法隆寺の聖徳太
子絵伝を絵解く」(招待講演)、2013、斑
鳩町いかるがホール

— 沖松健次郎、延久聖徳太子絵伝を絵解く、
斑鳩町いかるがホール「法隆寺の聖徳太
子「絵伝を絵解く」(招待講演)、2013、
斑鳩町いかるがホール

— 沖松健次郎、聖徳太子絵伝の世界、東京
国立博物館月例講演、2013、東京国立博
物館

— 沖松健次郎、聖徳太子絵伝入門、井波絵
解きフォーラム(招待講演)、2015、富山
県・井波総合文化センターメモリアルホ
ール

— 土屋貴裕、聖徳絵伝鑑賞の場、井波絵解
きフォーラム(招待講演)、2015、富山県・
井波総合文化センターメモリアルホール

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

沖松 健次郎 (OKIMASTU, Kenjiro)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部・室長
研究者番号：30332133

(2) 研究分担者

小林 達朗 (KOBAYASHI, Tatsuro)
独立行政法人国立文化財機構東京文化財
研究所・文化財情報資料部・室長
研究者番号：10342940

伊藤 信二 (ITO, Shinji)
独立行政法人国立文化財機構京都国立博
物館・学芸部・室長
研究者番号：00443622

土屋 貴裕 (TSUCHIYA, Takahiro)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸企画部・主任研究員
研究者番号：40509163

瀬谷 愛 (SEYA, Ai)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部・主任研究員
研究者番号：50555133

猪熊兼樹 (INOKUMA, Kaneki)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸企画部・主任研究員
研究者番号：30416557

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

谷口 耕生 (TANIGUCHI, Kosei)
独立行政法人国立文化財機構奈良国立博
物館・学芸部・室長

藤瀬 雄輔 (FUJISE, Yusuke)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部・専門職員

西川夏永 (NISHIKAWA, Natsue)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博
物館・学芸研究部・アソシエート・フェロ
ー

古川 撰一 (HURUKAWA, Shyoichi)
大和文華館・研究部員

村松 加奈子 (MURAMATSU, Kanako)
龍谷ミュージアム・講師

松浦 千栄子 (MATSUURA, Chieko)

木下 昌規 (KINOSHITA, Masaki)
大正大学・専任講師

内藤 航 (NAITO, Wataru)
筑波大学大学院人間総合科学研究科・院生

稲村 肇 (INAMURA, Hajime)